報告①｜主旨説明／主題解説

建築本部 建築BIM合同会議

建築生産委員会 BIM部会

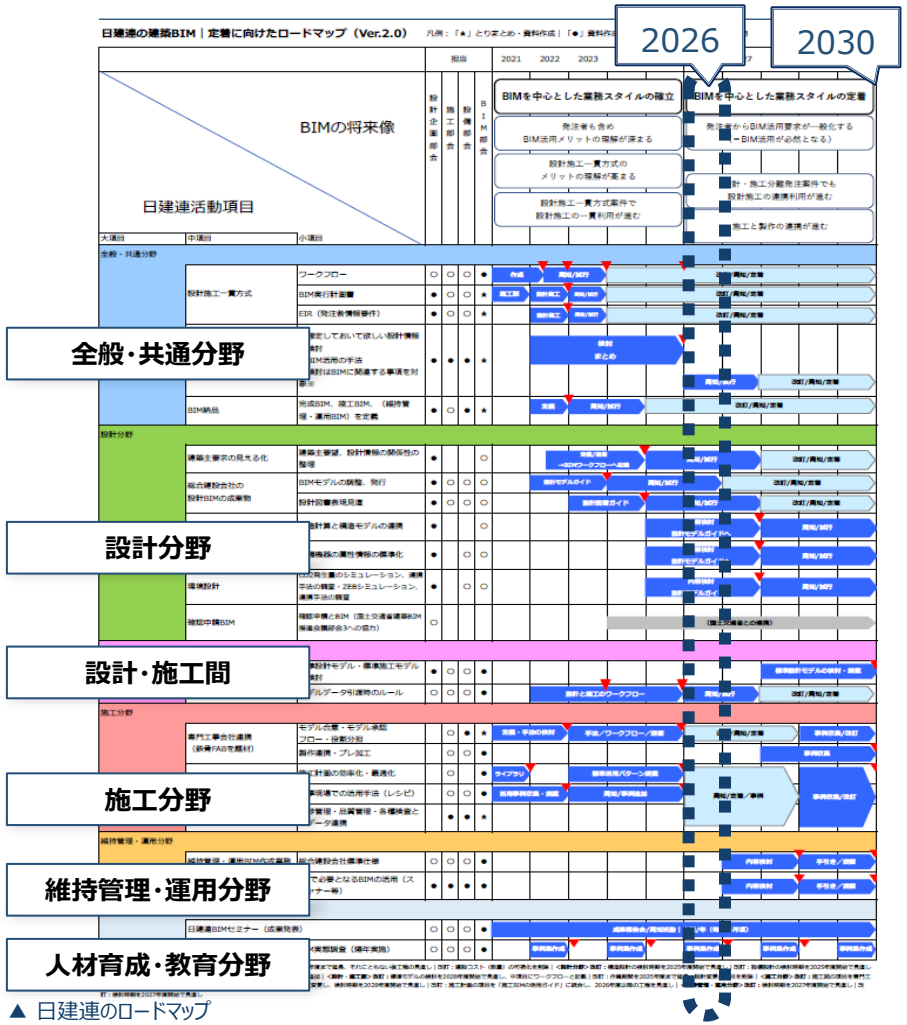
曽根巨充

一般社団法人日本建設業連合会
JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

はじめに｜日建連の建築BIMロードマップ

■ 目標 ▷ 確立（2025）から定着へ（2030）

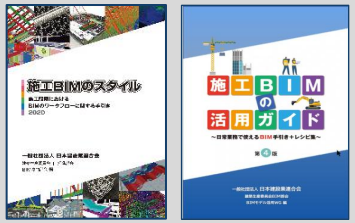
ロードマップ（今回、改訂）｜目標は変更なし



▲ 日建連のロードマップ

【改訂❶】
＜全般・共通分野＞
改訂：フロントローディングの検討期間を2025年度まで延長、それにともない後工程の見直し｜改訂：建設コスト（数量）の可視化を削除
＜設計分野＞
改訂：構造設計の検討時期を2025年度開始で見直し｜改訂：設備設計の検討時期を2025年度開始で見直し｜改訂：環境設計の検討時期を2025年度開始で見直し｜追加：確認申請BIMを追加
＜設計・施工間＞
改訂：標準モデルの検討を2028年度開始で見直し、中項目にワークフローと記載｜改訂：作業期間を2025年度まで延長、設計変更の項目を削除
＜施工分野＞改訂：施工図の項目を専門工事会社連携と統合し（鉄骨FABを題材）を追記｜改訂：手引き作成を情報収集に変更し、検討時期を2028年度開始で見直し｜改訂：施工計画の項目を「施工BIMの活用ガイド」に統合し、2026年度以降の工程を見直し
＜維持管理・運用分野＞改訂：検討時期を2027年度開始で見直し

主な成果物｜太文字が今回の対象

建築BIM（設計・施工・維持管理・運用）		• **設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（第4版：2026.6公開）** • **設計部門と施工部門の共創（例）（2026.6公開）**
設計BIM		• 設計BIMモデルガイド（2024.6）
施工BIM		• 「施工BIMのスタイル」（2021.3） • **鉄骨工事における設計者と施工者の共創（例）（2026.4公開）** • 施工BIMの活用ガイド（第4版）（2026.4に公開） • **設備備工事における設計者と施工者の共創（例）（2026.6公開）**
人材教育		• **日建連BIMセミナー（2026.6.19開催）** • 施工BIMのインパクト（2026.12予定） • **日建連会員企業BIM動向調査（2025年度）（2026.6公開）** • 「建築BIMのスタイル　事例集2026」（2027.3に公開予定）

▲ 日建連のロードマップに準拠した取り組み（概要）

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

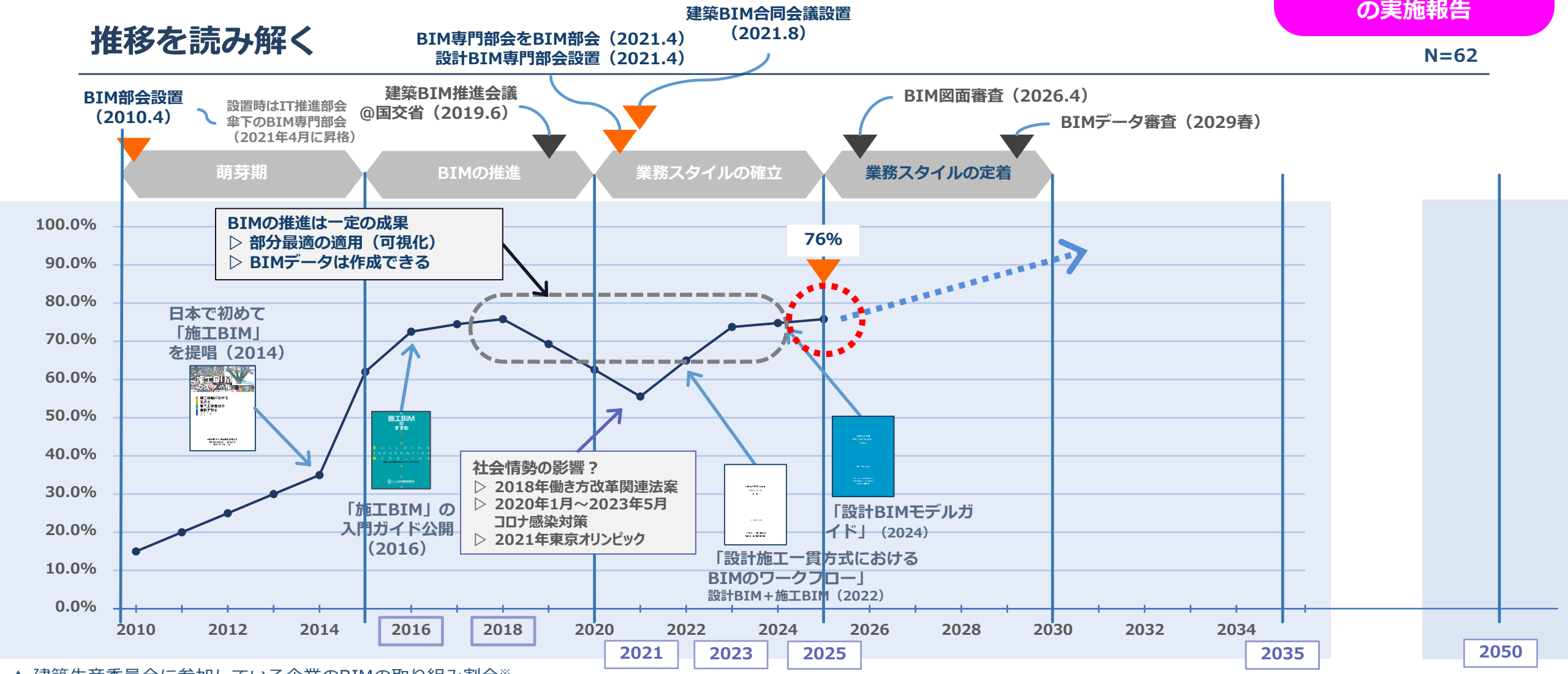
動向｜日建連会員企業におけるBIMの取り組み

■ 日建連BIM部会｜BIM実態調査の集計結果（2025）より

【報告②】
「BIM活用の実情把握に関するアンケート」の実施報告

推移を読み解く

N=62



▲ 建築生産委員会に参加している企業のBIMの取り組み割合※

※ 取組みの割合：BIM部会の調査年：2016年、2018年、2021年、2023年、2025年｜その他の年：前後の割合を踏まえた推測値
調査の際に未回答の企業は取組みをしていないとして集計した

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

今後｜パラダイムシフトに向けた取り組みの準備が必要

■ 「長期ビジョン2.0」「生産性向上推進要綱2.0」との一貫性



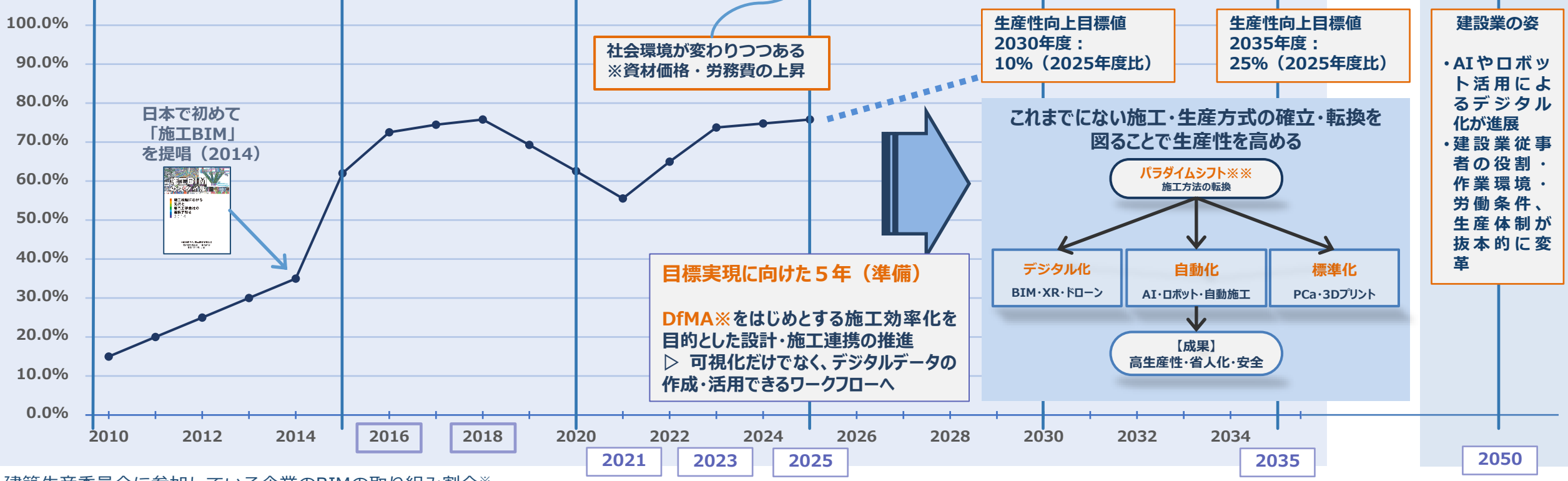


長期ビジョン2.0他で示された方向性（2025.7）

推移を読み解く

BIM部会設置（2010.4）
設置時はIT推進部会傘下のBIM専門部会（2021年4月に昇格）
CCUS（2019.4）
建築BIM推進会議@国交省（2019.6）
労働基準法改正適用（2024.4）
建設業法改正（全面施行）（2025.12）
BIM図面審査（2026.4）
持続可能な建設業及び不動産業の実現に向けた協議会（2026.6）
BIMデータ審査（2029春）

萌芽期 | BIMの推進 | 業務スタイルの確立 | 業務スタイルの定着 | 建設業は突き抜ける | 建設業はさらに進化する



日本で初めて「施工BIM」を提唱（2014）

社会環境が変わりつつある
※資材価格・労務費の上昇

生産性向上目標値
2030年度：
10%（2025年度比）

生産性向上目標値
2035年度：
25%（2025年度比）

建設業の姿
- AIやロボット活用によるデジタル化が進展
- 建設業従事者の役割・作業環境・労働条件、生産体制が抜本的に変革

これまでにない施工・生産方式の確立・転換を図ることで生産性を高める

パラダイムシフト※※
施工方法の転換

- デジタル化：BIM・XR・ドローン
- 自動化：AI・ロボット・自動施工
- 標準化：PCa・3Dプリント

【成果】
高生産性・省人化・安全

目標実現に向けた５年（準備）

DfMA※をはじめとする施工効率化を目的とした設計・施工連携の推進
▷ 可視化だけでなく、デジタルデータの作成・活用できるワークフローへ

▲ 建築生産委員会に参加している企業のBIMの取り組み割合※

※ DfMA：Design for Manufacture & Assemblyの略称。生産のための設計（製造および組立・施工を最適化する設計）

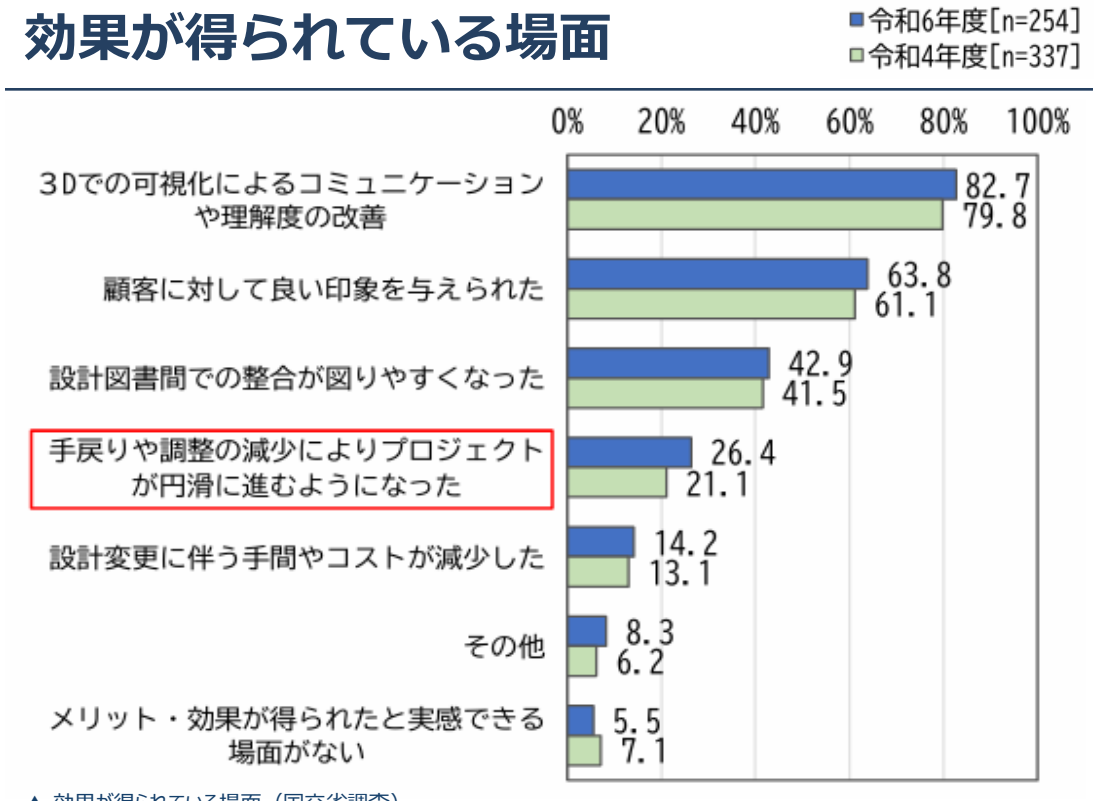
※※パラダイムシフト：その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが、革命的に、もしくは劇的に変化すること

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

BIM導入済み企業｜その先にある効果の兆候が見られる

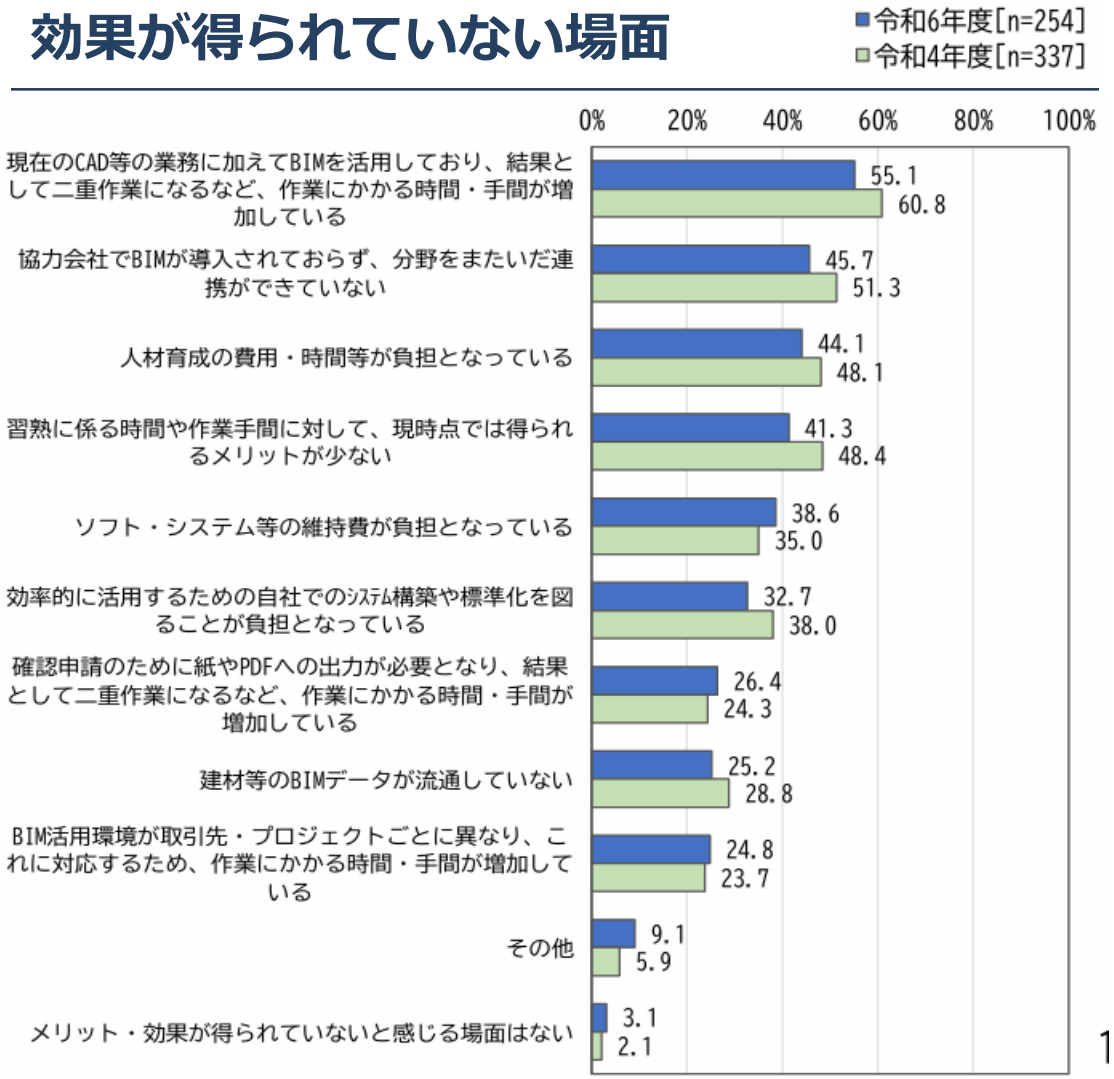
■ 国土交通省の調査結果（2025）より

効果が得られている場面



▲ 効果が得られている場面（国交省調査）

効果が得られていない場面



▲ 効果が得られていない場面（国交省調査）

- プロジェクトが効率的に進む数値が上昇
- これまでの建築生産プロセスから徐々に脱却し、課題の減少と効果の実感が示唆されている

出典：建築分野のBIMの活用・普及状況の実態調査（国土交通省調べ）について、令和7年1月

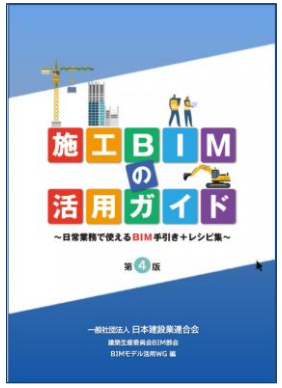
©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

業務スタイル（メニュー）は確立｜例えば、施工BIM

■ BIM部会 BIMデータ活用WG（2026年3月公開）

▲ ダウンロードページ

『施工BIMの活用ガイド』（第４版）で集大成｜アセンブリで活用









▲ 施工BIMの活用ガイド（第４版）

【特徴❶】ワークフロー
建築生産の各ステージでBIMのデータをどのように活用するのかをステージ内に104項目をプロット。
その中から24項目を取り上げ、活用レシピとして詳細に解説

【特徴❷】活用レシピ
24項目を取り上げ、活用方法を具体的に解説。
BIMの推進部門向けというより、BIMを作成していないが、作成したデータを活用する立場にあるBIMを使用していない施工管理者の理解を深めることができるように解説

活用のメニュー

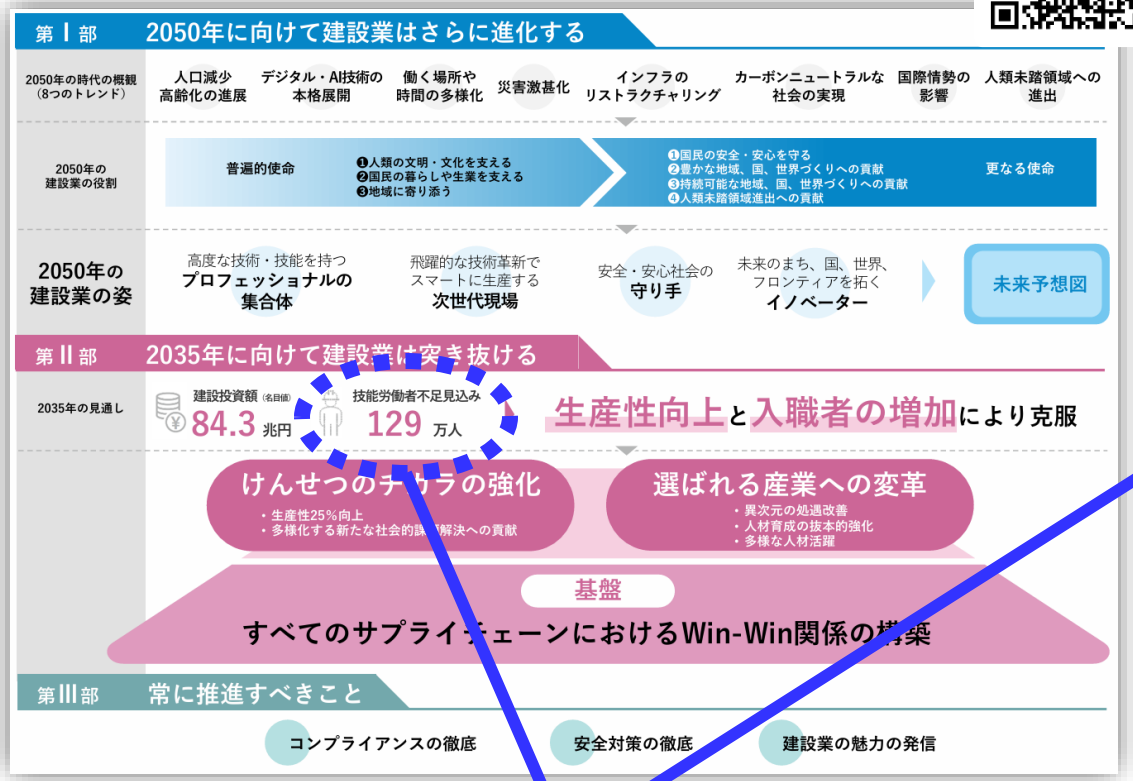
1. 揚重計画
2. 測量
3. 点群･重ね合わせ
4. 杭芯管理
5. ICT建機連携
6. 建築･設備重ね合わせ
7. 干渉チェック
8. 遠隔検査
9. 設備検査
10. 設備プレカット
11. BIMパンフレット
12. 設備･仕上xR
13. 鉄筋納まり検討
14. 鉄骨2次部材調整
15. 躯体図チェック
16. スリーブチェック
17. 出来形検査
18. 鉄骨精度管理
19. 区画･壁種別確認
20. 仕上検査
21. 定常業務
22. 安全計画検討
23. 維持管理
24. 揚重検討（増補）

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

BIM界隈の進展を凌ぐ勢いで、社会は大きく変化しつつある

■ 今はできているかもしれないが、その先も同様にできると言えるか

長期ビジョン2.0｜25年7月



▲ 長期ビジョン2.0より

- 129万人の不足をどうするのか、が求められている
- 不足分の61万人分は生産性の向上で解消が示された
- 今のままの延長線では大きな解消は見込みにくい

生産性向上推進要綱2.0｜25年12月

【生産性向上目標値】

・「建設業の長期ビジョン2.0」や過年度の日建連の生産性指標の実績値を鑑み、日建連における会員企業の生産性向上目標値は次のとおりとする。

- ■ 2030年度目標　2025年度比10%向上
- ■ 2035年度目標　2025年度比25%向上

イノベーション・市場環境改善による生産性のパラダイムシフト

→これまでにない施工・生産方式の確立・転換を図ることで生産性を高める（＝長期ビジョン2.0の実現）
→確立・転換にあたっての障害（法整備、コスト、技術開発、協調領域等）を特定し、解消することで、生産効率の高い手法が採用されやすい市場環境の構築を目指す

（参考：長期ビジョン2.0における生産性向上方策）

【スマート化デジタル技術を活用した、建設プロセス全体にわたる省人化・省力化】

a.BIM／CIMによる、設計・施工・維持管理に至る一連の建設プロセスの統合管理
b.XR技術（AR／VR／MRなど）による、設計・施工～検査に至る活用の広がり
c.ドローン、ロボットの導入による、施工中・施工後の短時間で高精度な測量・監視モニタリング

【現場における施工のオートメーション化】

a.工業化（プレキャスト化、3Dプリント等）・規格化とAI・ロボットの相乗効果によるスマートな生産体制
b.遠隔技術とリアルタイム可視化による勤務場所の変化
c.自動運転技術・自律型重機等の導入による安全性の飛躍的向上（死傷病者ゼロへの道筋）

▲ 生産性向上推進要綱2.0より

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

次のステージを見据える

■ 可視化だけでなく、データのマネジメント・工事監理／工事管理との融合へ

生産性のパラダイムシフト｜図面化の作図ツールではない。データのマネジメントへ

生産性の向上
の施策

◎不足分の47.2%を担う！

→ **施工のオートメーション化･スマート化**
工業化･規格化･自動運転･他

→ **デジタル技術を活用して建設プロセス全体に亘る省人化･省力化**
BIM、XR技術、ドローン、ロボット･他

BIMを中心とした業務スタイルの定着へ（2030）

設計者がやる施工者がやる、ではない ▷ 設計段階から設計者と施工者の共創が重要

デジタルデータの流通へ ▷ 新たなワークフローの出現（DfMA※）に向けた助走期間

※ DfMA (Design for Manufacture and Assembly: 製造組立容易性設計)
生産性向上推進要綱2.0で取り組む方策のひとつとして示された

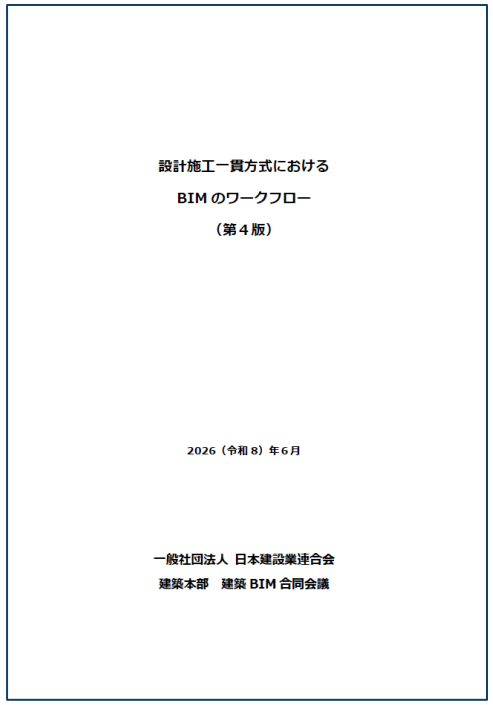
©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（2022－）

■ 次工程で使用するデータを適切なタイミングで作成・連携

【討議①－③】
設計と施工が共創する
BIMワークフロー

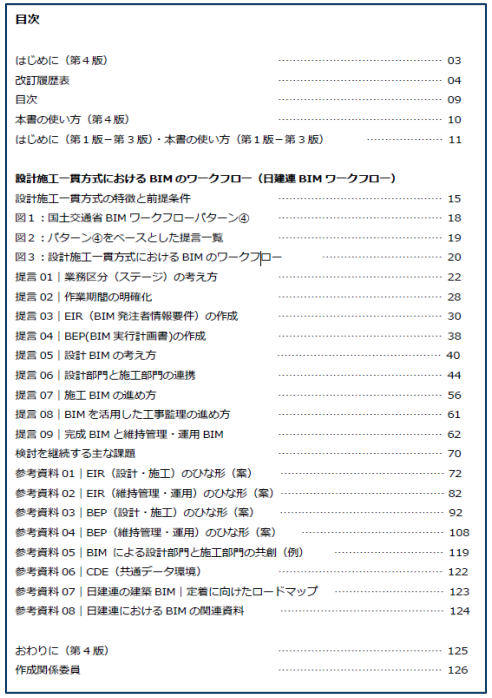
９つの提言｜設計と施工の連携のあり方を改訂


設計施工一貫方式における
BIM のワークフロー
（第４版）

2026（令和８）年６月

一般社団法人 日本建設業連合会
建築本部　建築 BIM 合同会議

▲ 表紙（第４版）


目次

はじめに（第４版） 03
改訂履歴表 04
目次 09
本書の使い方（第４版） 10
はじめに（第１版－第３版）・本書の使い方（第１版－第３版） 11

設計施工一貫方式における BIM のワークフロー（日建連 BIM ワークフロー）
設計施工一貫方式の特徴と前提条件 15
図１：国土交通省 BIM ワークフローパターン④ 18
図２：パターン④をベースとした提言一覧 19
図３：設計施工一貫方式における BIM のワークフロー 20
提言 01｜業務区分（ステージ）の考え方 22
提言 02｜作業期間の明確化 28
提言 03｜EIR（BIM 発注者情報要件）の作成 30
提言 04｜BEP(BIM 実行計画書)の作成 38
提言 05｜設計 BIM の考え方 40
提言 06｜設計部門と施工部門の連携 44
提言 07｜施工 BIM の進め方 56
提言 08｜BIM を活用した工事監理の進め方 61
提言 09｜完成 BIM と維持管理・運用 BIM 62
検討を継続する主な課題 70
参考資料 01｜EIR（設計・施工）のひな形（案） 72
参考資料 02｜EIR（維持管理・運用）のひな形（案） 82
参考資料 03｜BEP（設計・施工）のひな形（案） 92
参考資料 04｜BEP（維持管理・運用）のひな形（案） 108
参考資料 05｜BIM による設計部門と施工部門の共創（例） 119
参考資料 06｜CDE（共通データ環境） 122
参考資料 07｜日建連の建築 BIM｜定着に向けたロードマップ 123
参考資料 08｜日建連における BIM の関連資料 124

おわりに（第４版） 125
作成関係委員 126

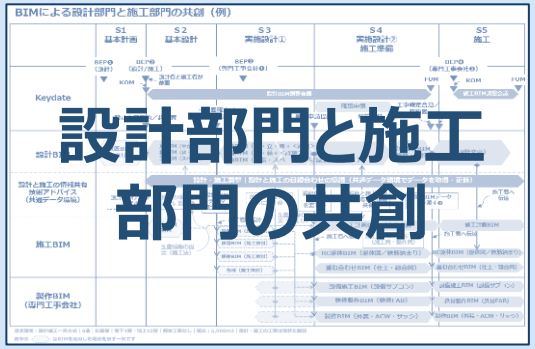
▲ 目次

【提言06｜設計部門と施工部門の連携】を強化

設計部門（意匠・構造・設備）と施工部門（元請・専門工事会社）が**プロジェクトの特性・目的に合わせて、業務を開始する前にワークフローを立案**すること、を示した

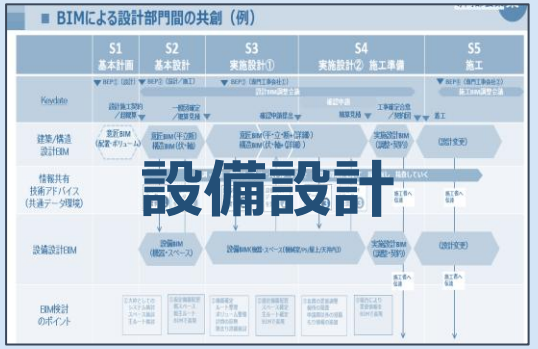
【提言06】で追加したワークフローと解説

討議❶｜設計-施工



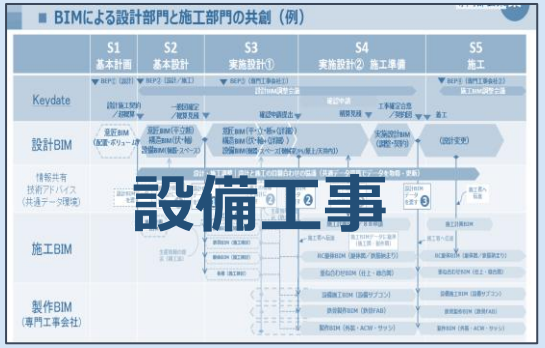
▲ ワークフロー（例）

討議❷｜設備-意/構



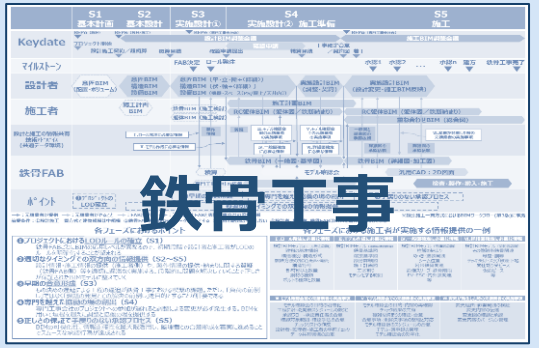
▲ ワークフロー（例）

討議❷｜設備-施工



▲ ワークフロー（例）

討議❸｜設計-施工



▲ ワークフロー（例）

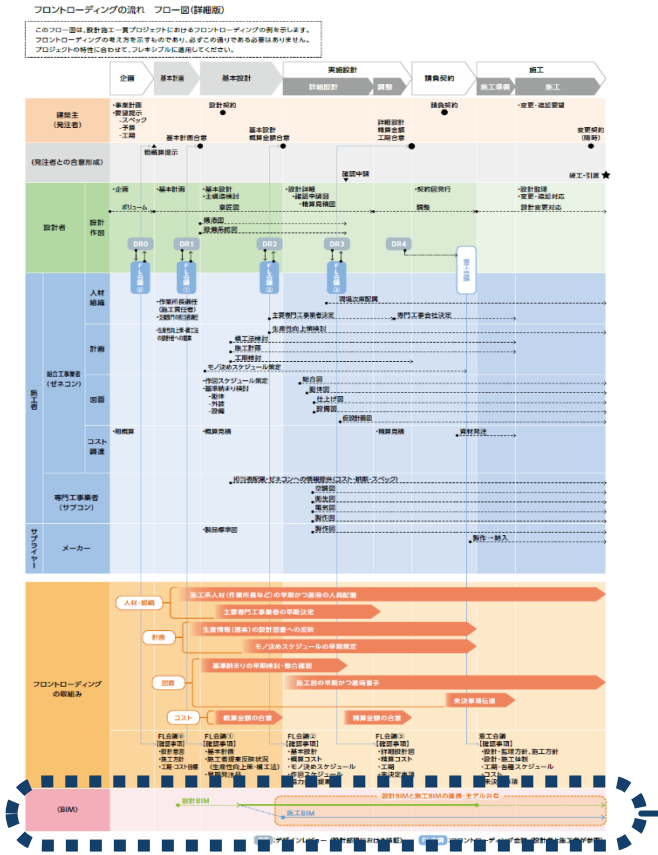
©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

討議①｜BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）

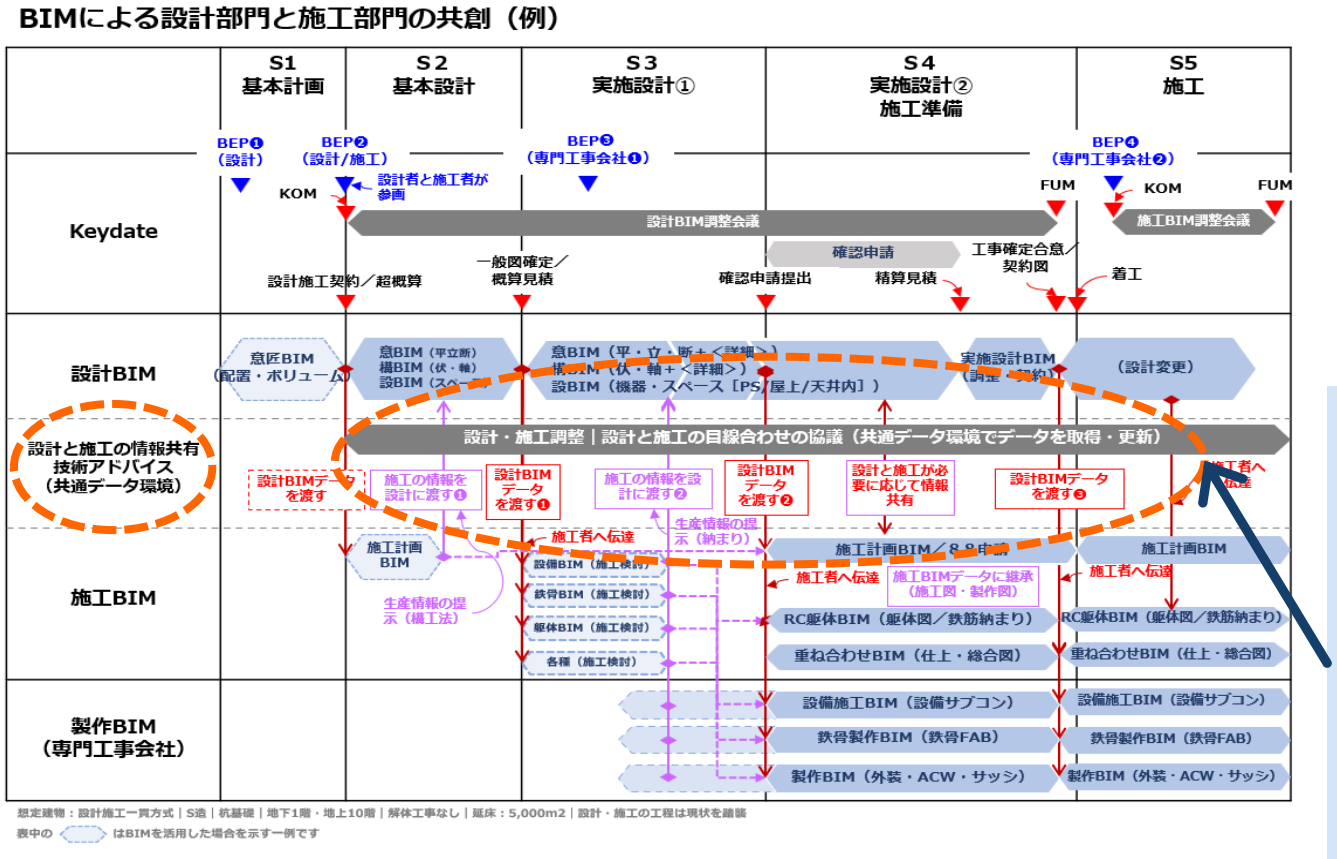
■ 設計施工一貫方式におけるBIMの考え方は確立できた

【討議①】
設計と施工が共創する
BIMワークフロー

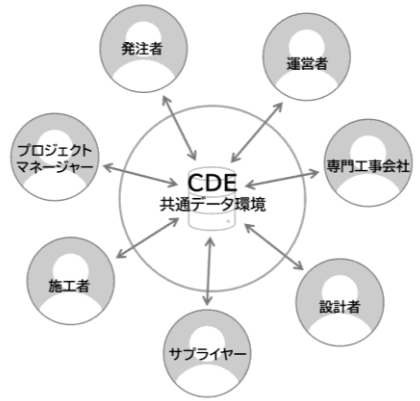
プロジェクトの特性に合わせて「BEP」を作成し、お互いが作業前に合意すること



▲フロントローディングのワークフロー



▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー



縦の情報共有を共通データ環境で双方向で連携すること

クラウド環境による情報共有は、プロジェクト毎で関係者間においてデータの共有やバージョン管理は現在でも実行されていると思います。
大きく異なるのは、ステータス管理を厳密に実施することにあります。ステータスは４つあり「作業中」「共有」「公開」「アーカイブ」です。

図版出典（左）：フロントローディングの手引き2019、日本建設業連合会、2019.7
図版出典（右）：設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（第４版）素案、日本建設業連合会建築BIM合同会議、2025.11

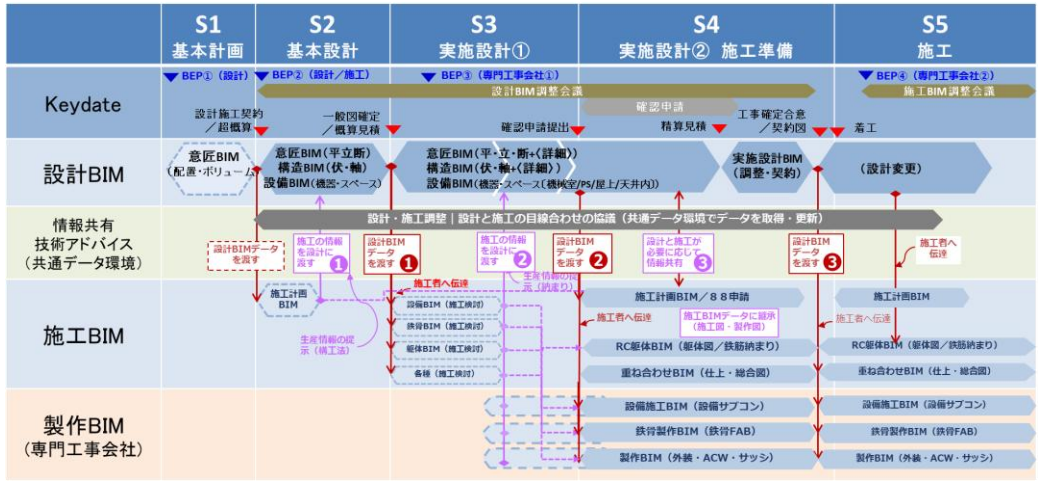
©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

討議②｜設備工事編｜設計部門と施工部門の共創

■ 設計施工一貫方式におけるBIMの考え方は確立できた

【討議②】
設備工事で共創する
BIMワークフロー

設計－施工｜情報のマネジメント

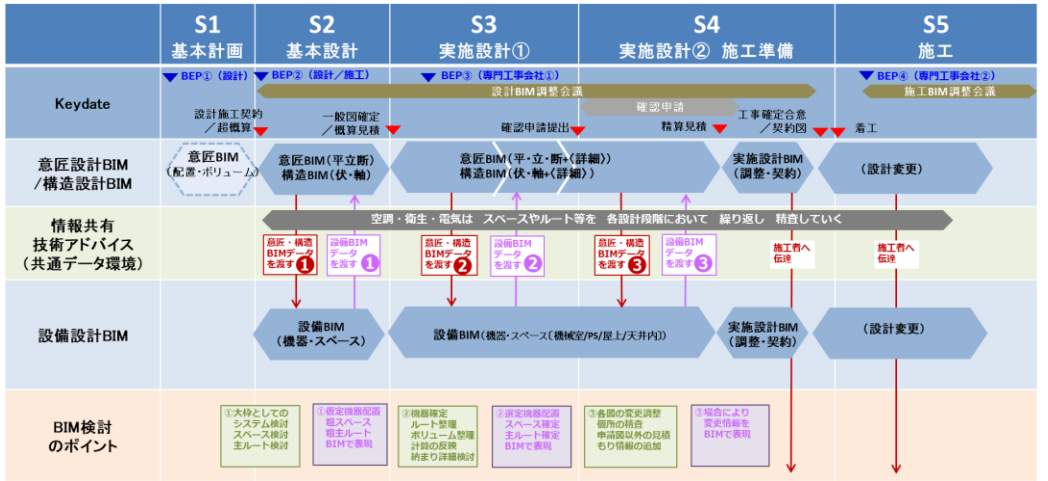


▲ BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）

	S2 基本設計	S3 実施設計①	S4 実施設計②施工準備
設計BIM（設備設計）	室諸元 設備計算（概略） システム検討 主要機器プロット・機器リスト スペース調整（機械室・シャフト） メインルート 省エネ計算（概略） 環境シミュレーション	室諸元（確定） 設備計算・機器選定（詳細） 機器/器具プロット・機器/器具リスト 機械室位置・サイズ シャフト位置・サイズ 天井伏調整 梁せい・スリーブ調整	計算書まとめ （諸元・負荷計算・機器選定） 設備図まとめ （リスト・系統図・平面図・詳細図） 建築依頼 （スリーブ・開口補強など） 省エネ計算（詳細）
施工BIM（設備施工）	施工計画（搬入計画・ インフラ引き込み計画など）	施工計画（仮設・搬入計画・ インフラ引き込み計画など） 重ね合わせ（総合図） 生産情報（納まり検討）	施工計画（仮設・搬入計画・ インフラ引き込み計画など） 重ね合わせ（総合図） 生産情報（納まり検討）

▲ BIMによるデータ連携　（設備設計⇔設備施工）

設計－施工｜情報のマネジメント



▲ BIMによる意匠・構造・設備部門間の共創（例）

	S2 基本設計	S3 実施設計①	S4 実施設計②施工準備
意匠設計BIM	ゾーニング・プラン計画 機械室・シャフト・EV 外装（ガラリ含） 省エネ計算（概略）	一般図 区画・断熱・防水 天井伏図	意匠図まとめ （詳細図・建具ほか） 省エネ計算（詳細）
構造設計BIM	荷重計算・解析モデル 仮定断面 （柱・大梁・耐震壁・ブレース）	荷重計算・解析モデル 確定断面（二次部材含め） 躯体貫通要領	構造図まとめ
設備設計BIM	室諸元 設備計算（概略） システム検討 主要機器プロット・機器リスト 荷重情報 スペース調整（機械室・シャフト） 水槽容量計算 メインルート 省エネ計算（概略） 環境シミュレーション	室諸元（確定） 設備計算・機器選定（詳細） 機器/器具プロット 機器/器具リスト 機械室位置・サイズ シャフト位置・サイズ 天井伏調整 梁せい・スリーブ調整	計算書まとめ （諸元・負荷計算・機器選定） 設備図まとめ （リスト・系統図・平面図・詳細図） 建築依頼 （スリーブ・開口補強など） 省エネ計算（詳細）

▲ BIMによるデータ連携（意匠・構造⇔設備）

各ステージで縦の情報共有として必要と思われる生産情報例を示した。本ワークフローを参考にして情報の精度や粒度を作業前に決めます

BIMの使い方ではなく、設計者や施工管理者のマネジメントスキルの話です

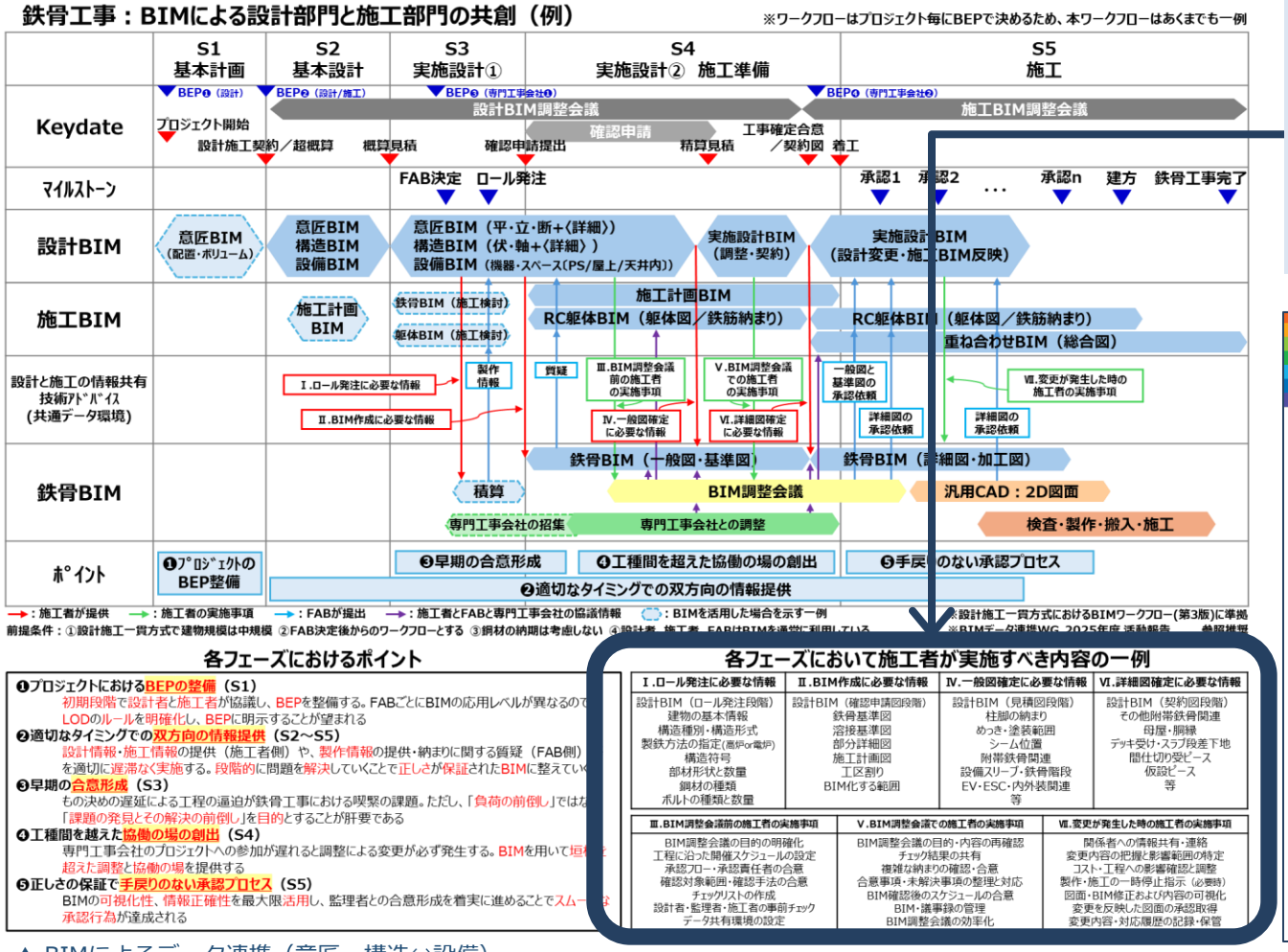
©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

討議③｜鉄骨工事編｜設計部門と施工部門の共創

■ 設計施工一貫方式におけるBIMの考え方は確立できた

【討議③】
鉄骨工事で共創する
BIMワークフロー

設計－施工｜情報のマネジメント



各フェーズにおけるポイント

❶プロジェクトにおけるBEPの整備（S1）
初期段階で設計者と施工者が協議し、BEPを整備する。FABごとにBIMの応用レベルが異なるので
LODのルールを明確化し、BEPに明示することが望まれる

❷適切なタイミングでの双方向の情報提供（S2～S5）
設計情報・施工情報の提供（施工者側）や、製作情報の提供・納まりに関する質疑（FAB側）
を適切に遅滞なく実施する。段階的に問題を解決していくことで正しさが保証されたBIMに整えてい

❸早期の合意形成（S3）
もの決めの遅延による工程の逼迫が鉄骨工事における喫緊の課題。ただし、「負荷の前倒し」ではな
「課題の発見とその解決の前倒し」を目的とすることが肝要である

❹工種間を越えた協働の場の創出（S4）
専門工事会社のプロジェクトへの参加が遅れると調整による変更が必ず発生する。BIMを用いて垣
超えた調整と協働の場を提供する

❺正しさの保証で手戻りのない承認プロセス（S5）
BIMの可視化性、情報正確性を最大限活用し、監理者との合意形成を着実に進めることでスムー
承認行為が達成される

各フェーズにおいて施工者が実施すべき内容の一例

Ⅰ.ロール発注に必要な情報	Ⅱ.BIM作成に必要な情報	Ⅳ.一般図確定に必要な情報	Ⅵ.詳細図確定に必要な情報
設計BIM（ロール発注段階） 建物の基本情報 構造種別・構造形式 製鉄方法の指定(高炉or電炉) 構造符号 部材形状と数量 鋼材の種類 ボルトの種類と数量	設計BIM（確認申請図段階） 鉄骨基準図 溶接基準図 部分詳細図 施工計画図 工区割り BIM化する範囲	設計BIM（見積図段階） 柱脚の納まり めっき・塗装範囲 シーム位置 附帯鉄骨関連 設備スリーブ・鉄骨階段 EV・ESC・内外装関連 等	設計BIM（契約図段階） その他附帯鉄骨関連 母屋・胴縁 デッキ受け・スラブ段差下地 間仕切り受ピース 仮設ピース 等

Ⅲ.BIM調整会議前の施工者の実施事項	Ⅴ.BIM調整会議での施工者の実施事項	Ⅶ.変更が発生した時の施工者の実施事項
BIM調整会議の目的の明確化 工程に沿った開催スケジュールの設定 承認フロー・承認責任者の合意 確認対象範囲・確認手法の合意 チェックリストの作成 設計者・監理者・施工者の事前チェック データ共有環境の設定	BIM調整会議の目的・内容の再確認 チェック結果の共有 複雑な納まりの確認・合意 合意事項・未解決事項の整理と対応 BIM確認後のスケジュールの合意 BIM・議事録の管理 BIM調整会議の効率化	関係者への情報共有・連絡 変更内容の把握と影響範囲の特定 コスト・工程への影響確認と調整 製作・施工の一時停止指示（必要時） 図面・BIM修正および内容の可視化 変更を反映した図面の承認取得 変更内容・対応履歴の記録・保管

▲ BIMによるデータ連携（意匠・構造⇔設備）

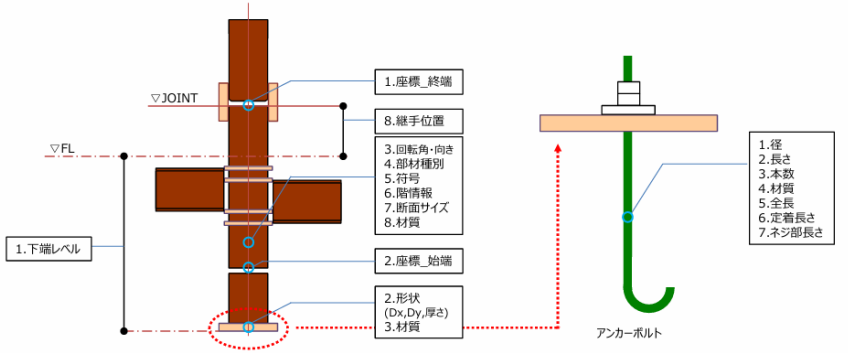
各ステージの情報共有

各ステージで共有する生産情報の項目を例示
情報共有だけでなく、どのステージでどのような情報が確定しているのが望ましいのか、具体的に例示しています
BIMのモデリングの話題ではなく、設計者や施工管理者のマネジメントスキルの話です
▷ BIMマネージャーのスキル定義を考えることが望まれる

BIMデータ連携で必要な項目の一例　柱

■ 3．鉄骨FABと考えるBIMデータ連携

角型鋼管	H型鋼	円形鋼管	ベースプレート	アンカーボルト	その他
1 座標_始端	1 座標_始端	1 座標_始端	1 下端レベル	1 径	1 柱脚の工法
2 座標_終端	2 座標_終端	2 座標_終端	2 形状(Dx,Dy,厚さ)	2 長さ	2 リブプレート
3 回転角・向き	3 回転角・向き	3 回転角	3 材質	3 本数	3 頭付きスタッド
4 部材種別	4 部材種別	4 部材種別		4 材質	4 CFT打設孔
5 符号	5 符号	5 符号		5 全長	5 スキンプレートの通し方向
6 階情報	6 階情報	6 階情報		6 定着長	
7 断面サイズ	7 断面サイズ	7 断面サイズ		7 ネジ部長さ	
8 材質	8 材質	8 材質			
9 継手位置	9 継手位置	9 継手位置			



©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

おわりに｜2030年度の定着に向けた５年にします

■ 施工BIMだけでなく建築BIMとしての活動を進めます

2035年・2050年に向けたBIMのあり方の討議を進めます

- 日建連の「長期ビジョン2.0」や「生産性向上推進要綱2.0」の方針に合わせた**課題解決に向けた取り組み**を進めます

  ▷ **BIMのロードマップを見直し（2035年に向けて）**



▲ 長期ビジョン2.0(2025.7)



▲ 生産性向上推進要綱2.0(2025.12)

デジタルデータの活用による生産性向上のあり方

日本におけるDfMA／オフサイトコンストラクションなどのような新たなアプローチとBIM（デジタルデータ）の関係性の方向性を検討

◎ 設計段階での施工者と共創するワークフローが定着

◎ 専門工事会社とのWIN-WINの関係とは

◎ 総合建設会社のデジタルデータをマネジメントするスキル

啓発・周知

『建築BIMのスタイル　事例集2026』

の編集・公開（**2027年3月末**公開予定）

▷「施工BIM」に加えて「**設計BIM**」や「**設備BIM**」の事例を新たに加えて刊行します

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

BIM｜関連する部会・専門部会・WG（委員名簿）

■ 多くの委員のみなさまの尽力により成り立っています

委員会名		委員名（会社名）	主な成果物
建築本部 建築BIM合同会議	設計企画部会	田口 晃（大成建設）｜柴田淳一郎（大林組）｜一居康夫（大林組）｜池田英美（竹中工務店）	設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（第４版）
	施工部会	荒木真也（鹿島建設）｜菅原敏晃（竹中工務店）	
	設備部会	勝俣貴之（熊谷組）｜大竹義夫（安藤・間）｜池田麻紀子（大林組）	
	BIM部会	**●曽根巨充（前田建設）**｜吉田知洋（鹿島建設）｜三輪哲也（竹中工務店）	
建築BIM合同会議は各部会・専門部会の上部組織に位置づけられています。活動は各部会と連携をしています			
建築設計委員会 設計企画部会 設計BIM専門部会		**◎一居康夫（大林組）**｜畠山 尚（大成建設）｜栗原玄太（鹿島建設）｜小池 健（鹿島建設）｜小原 貢（鹿島建設）｜佐藤 浩（清水建設）｜池田英美（竹中工務店）｜金子 清（東急建設）｜北川剛司（戸田建設）｜長岡 拓哉（フジタ）｜永松航介（前田建設）｜谷島 渉（安藤・間）｜ホアン ティ フェン（竹中工務店）	設計BIMモデルガイド（第1版）
建築生産委員会 施工部会 生産性向上推進専門部会		**◎菅原敏晃（竹中工務店）**｜横井勝巳（安藤・間）｜越智栄三郎（大林組）｜佐藤貴弘（鹿島建設）｜安井信晴（熊谷組）｜波多野 純（鴻池組）｜正田雄高（五洋建設）｜沼尾憲司（清水建設）｜田中吉史（大成建設）｜倭 美也子（大成建設）｜松野幸夫（東急建設）｜田伏雅樹（戸田建設）｜小原澤義久（西松建設）｜長谷川 淳（長谷工コーポレーション）｜林 和也（フジタ）｜田澤憲一（前田建設）｜齊藤 剛（三井住友建設）｜荒木真也（鹿島建設）	フロントローディングの手引き2019
建築生産委員会 設備部会 設備情報化専門部会		**◎大竹義夫（安藤・間）**｜三好 徹也（東急建設）｜池田麻紀子（大林組）｜山田佳史（鹿島建設）｜栗原洋太（熊谷組）｜冨上祐輔（鴻池組）｜菊池政伸（五洋建設）｜小野寺 理（佐藤工業）｜神田奈々江（清水建設）｜加藤加奈恵（大成建設）｜吉田明佑美（竹中工務店）｜諏訪部泰徳（戸田建設）｜長田康彦（飛島建設）｜福嶋篤史（西松建設）｜深田直矢（フジタ）｜前田 諒（前田建設工業）｜定松正樹（三井住友建設）	設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（設備工事編）
建築生産委員会 BIM部会		**●曽根巨充（前田建設）**｜吉田知洋（鹿島建設）｜三輪哲也（竹中工務店）｜奥田大輔（淺沼組）｜笠置正史（安藤・間）｜塩坂靖彦（大林組）｜脇田明幸（奥村組）｜柴田明生（熊谷組）｜内田公平（鴻池組）｜公平桂右（五洋建設）｜三戸景資（清水建設）｜土肥和也（錢高組）｜浅沼勝彦（大成建設）｜林 征弥（東急建設）｜田伏雅樹（戸田建設）｜濱岡正行（西松建設）｜佐藤浩介（長谷工コーポレーション）｜小田博志（フジタ）｜鈴木 翔（三井住友建設）｜山越広志（鹿島建設）	・設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（第４版） ・施工BIMのスタイル
建築生産委員会 BIM部会 BIM啓発専門部会		**◎三輪哲也（竹中工務店）**｜奥田大輔（浅沼組）｜岡田隆司（安藤・間）｜田中元明（大林組）｜川崎貴之（鹿島建設）｜中村治男（五洋建設）｜吉原裕之（清水建設）｜土肥和也（錢高組）｜立岡慎吾（大成建設）｜鷹觜優輔（東急建設）｜渡邉太久実（戸田建設）｜古賀稔章（フジタ）	・BIM活用の実態把握に関するアンケートの実施報告 ・建築BIMのスタイル事例集
建築生産委員会 BIM部会 BIMデータ連携WG ※成果物がまとまったので、2026年３月で活動終了		**〇垣内延介（大林組）**｜福田 篤（安藤・間）｜三宅正人（大林組）｜遠藤元樹（熊谷組）｜伊野上太一（鴻池組）｜藤岡 杏（五洋建設）｜大越 潤（清水建設）｜堀口 衛（大成建設）｜小川裕介（東急建設）｜原 康輔（西松建設）｜佐藤浩介（長谷工コーポレーション）｜神山翔太（フジタ）｜芳中駿（フジタ）｜藤井周太（前田建設）｜岡田義樹（三井住友建設）	設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（鉄骨工事編）

▲ 関係者の名簿

【凡例】●：議長・部会長｜◎：主査｜〇：WGリーダー

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会

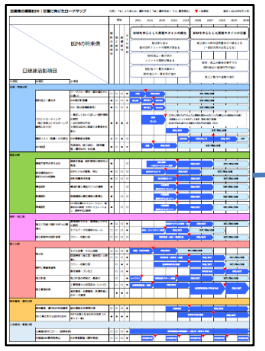
本セミナーの資料は以下に公開しています

■ セミナーの資料は日建連HPから入手できます。

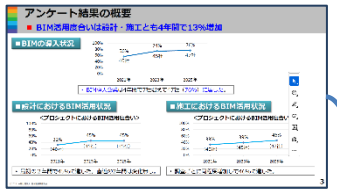
BIM部会 検索



▲ セミナー関連資料

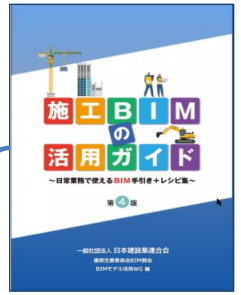


▲ ロードマップ

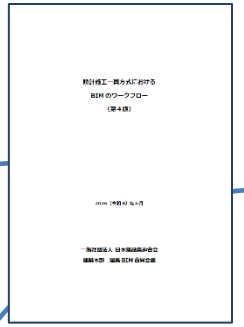


▲ BIM実態調査2025





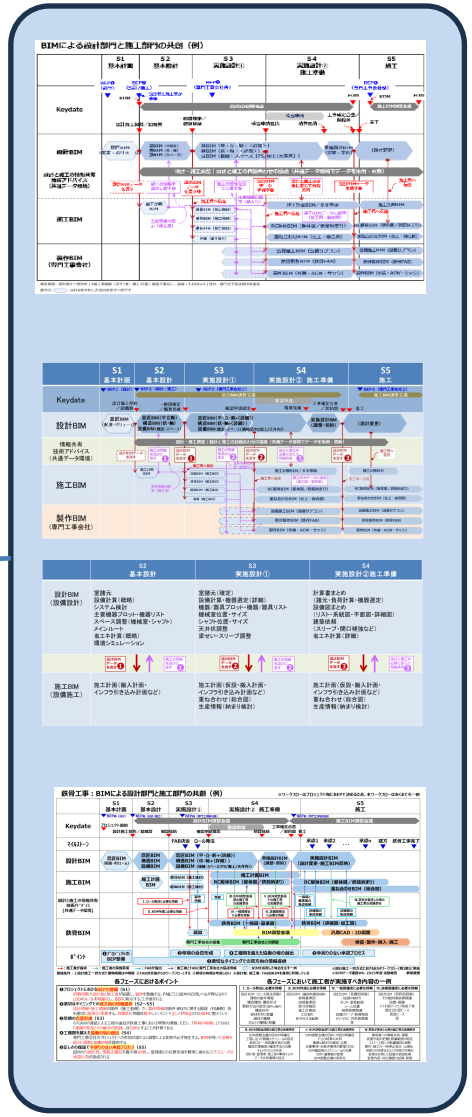
▲ 施工BIMの活用ガイド（第4版）



▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（第4版）



▲ 施工BIMのスタイル事例集2024



▲ 各種ワークフロー

©2026 一般社団法人 日本建設業連合会



©2026 一般社団法人 日本建設業連合会